

レジャースポットの抱える漂着ゴミ ～佐渡島を中心に～

リサーチの背景

海に囲まれている島国である日本は、海ゴミ問題を抱えている。特に日本海側の海岸には、対馬海流の影響を受け大量のゴミが漂着する。私が清掃活動で訪れた新潟県佐渡島も、その代表的な一例だ。実際に現地の海岸を目にし地元の方から話を聞いた漂着ゴミの現状は、想像以上であった。この体験から、当レポートでは佐渡島を例にレジャースポットの抱える漂着ゴミに着目する。

作成者: H.K.

レポートに関する
お問い合わせ:
03-5542-5300
info@sfinter.com

佐渡市日本海沿岸清掃活動 実録



▶ Before



▶ After

(画像:筆者撮影 佐渡島大野亀)

大量に押し寄せる漂着ゴミ

「漂着ゴミ」とは、海に流れ込み海岸に打ち上げられたゴミのことである。海岸を漂う「漂流ゴミ」、海底に沈んだ「海底ゴミ」と合わせて「海ゴミ」と総称される。

私が参加した清掃活動では、2日間で6.5トンの漂着ゴミを回収した。海で使う浮きや漁網などの漁具もあったが、それよりも多かったのは生活用品である。ペットボトルや洗剤などの日用品だけでなく、「なぜこんなところに」と思うカラーコーンやおもちゃなど様々なものが漂着していた。佐渡を含めた新潟県の海岸には、毎月約1,450トンものゴミが漂着しているそうだ。

美しい海の裏には…

佐渡島は、「ジオパーク」に認定されており、毎年約50万人が観光に訪れる人気のレジャースポットだ。「ニツ亀海岸」は「日本の快水浴場100選」や「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」にも選ばれている。このような美しい海にとって、漂着ゴミは景観の悪化を引き起こす要因となっているのだ。

また、佐渡島の平均年齢は52歳である。東京23区の44歳と比べると高く、少子高齢化が進んでいる。加えて海岸は足場が悪く岩場も多いため、高齢の地元住民だけでは清掃に限りがある。現地の方によると、台風や風の影響を受け一度清掃しても1週間後にはゴミが積もるのが現状だそうだ。**拾いきれない上に漂着し続け、終わりが無いのが海ゴミ問題の特徴なのだ。**清掃をするとともに海への流出を抑えることで、観光地を悩ます漂着ゴミをなくすことに繋がるだろう。

「未来の漂着ゴミ」をなくすために今日から私たちにできること

海ゴミのうち8割は「家庭で出たゴミ」だとされている。日本はインフラが整いゴミを分別して捨てる習慣がある。一方で、処理ルートに乗らず海に流出してしまうゴミもいまだ多くある。**ゴミを確実にゴミ箱に捨てるだけでも、漂着ゴミ削減に繋がるのではないだろうか。**最近ではボランティアの団体も増え、地元の人だけでなく佐渡島での清掃活動が行われている。日本財団では「海と日本PROJECT」と称し、全国で海ゴミ問題に関するイベントや取り組みを行っているそうだ。実際に筆者も清掃活動を通して、訪れるからこそ知ることのできる佐渡の魅力を感じ、住民の方との繋がりもできた。観光を兼ねてボランティアに参加し、楽しく社会貢献してみたいかがだろうか。

海ゴミに国境はない

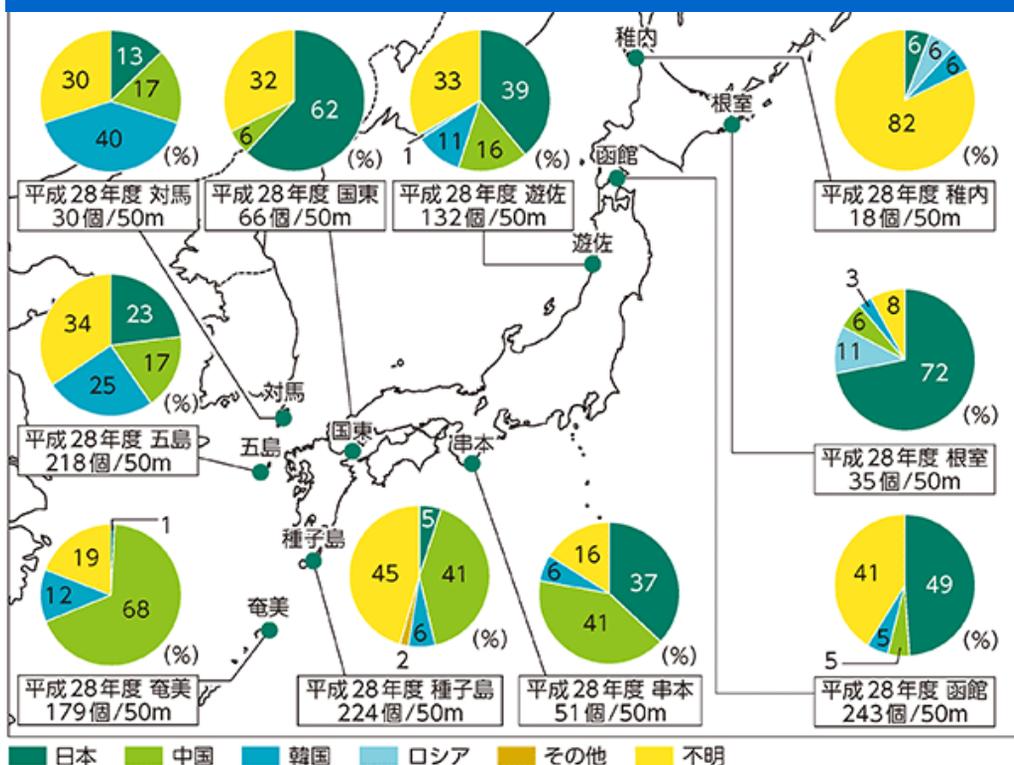
現在世界の海に漂うゴミの量は、**総計1億5,000万トン**であるとされている。特に量が多い物がプラスチックである。**世界では毎年約800万トンものプラスチックが海洋に流出している**とされ、佐渡に漂着するゴミの中でもプラスチックは全体の76%を占めているそうだ。この大半を占めるプラスチックを削減できれば、漂着ゴミの量は大幅に減るだろう。身の回りに溢れるプラスチック用品が本当に必要なのか、見直すことでゴミの削減に繋がるのではないだろうか。

さらに、佐渡島の海岸に漂着するのは日本のゴミだけではない。ハンブルグや中国語のゴミもあり、国際的な問題となっていることを身をもって感じた。このように外国由来のゴミが日本に漂着するが、同じように日本のゴミも海外に漂着している。環境省の調査によると、日本の底引き網がハワイの海岸に流れ着いた事例もある。**漂着ゴミは、国内だけで解決することのできない深刻な問題**となっているのだ。自分の出したゴミが海外に漂着する可能性のあることを忘れず、責任を持って適正に捨てることを心掛けていきたい。



▲佐渡の海岸に漂着した外国由来のゴミ
(画像:筆者撮影)

漂着ペットボトルの製造国別割合(平成28年度調査)



(出典:環境省「海洋ゴミをめぐる最近の動向」平成30年9月)

参照・引用資料

- ▶環境省「海洋ごみとマイクロプラスチックに関する環境省の取組」(http://www.env.go.jp/water/marine_litter/00_MOE.pdf)
- ▶海と日本PROJECT「今、知っておきたい海洋ごみの事情」(<https://uminohi.jp/kaiyougomi/>)
- ▶日本財団ホームページ<https://www.nippon-foundation.or.jp>

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。

本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。株式会社サティスファクトリーは、本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。

また、本件に関する知的所有権は株式会社サティスファクトリーに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。

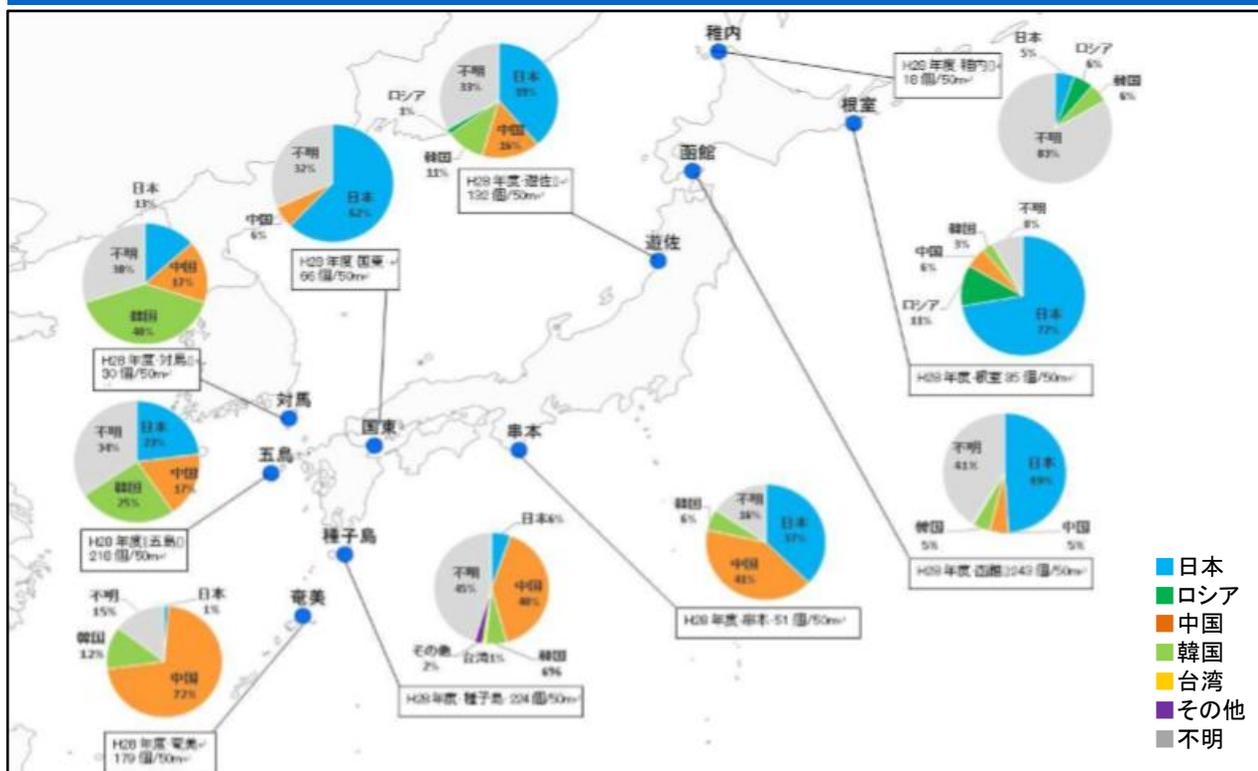
現在世界の海に漂うゴミの量は、**総計1億5,000万トン**であるとされている。特に量が多い物がプラスチックである。**世界では毎年約800万トンものプラスチックが海洋に流出している**とされ、佐渡に漂着するゴミの中でもプラスチックは全体の76%を占めているそうだ。この大半を占めるプラスチックを削減できれば、漂着ゴミの量は大幅に減るだろう。身の回りに溢れるプラスチック用品が本当に必要なのか、見直すことでゴミの削減に繋がるのではないだろうか。



▲佐渡の海岸に漂着した外国由来のゴミ
(画像:筆者撮影 佐渡島大野亀)

さらに、佐渡島の海岸に漂着するのは日本のゴミだけではない。ハン글文字や中国語のゴミもあり、国際的な問題となっていることを身をもって感じた。このように外国由来のゴミが日本に漂着するが、同じように日本のゴミも海外に漂着している。環境省の調査によると、日本の底引き網がハワイの海岸に流れ着いた事例もある。**漂着ゴミは、国内だけで解決することのできない深刻な問題**となっているのだ。自分の出したゴミが海外に漂着する可能性のあることを忘れず、責任を持って適正に捨てることを心掛けていきたい。

漂着ペットボトルの製造国別割合(平成28年度調査)



(出典:環境省「海洋ゴミをめぐる最近の動向」平成30年9月)

参照・引用資料

- ▶環境省「海洋ごみとマイクロプラスチックに関する環境省の取組」(http://www.env.go.jp/water/marine_litter/00_MOE.pdf)
- ▶海と日本PROJECT「今、知っておきたい海洋ごみの事情」(<https://uminohi.jp/kaiyougomi/>)
- ▶日本財団ホームページ<https://www.nippon-foundation.or.jp>

本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。

本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。株式会社サティスファクトリーは、本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。

また、本件に関する知的所有権は株式会社サティスファクトリーに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。